

## 5 ソフト面での取組

- 浸水被害に備えて実施するハード面での施設整備は、完了までに長期間を要します。また、既に整備した施設の効果を確実に発揮させる上でも、発災時の迅速な対応など、ソフト面での取組が重要となります。
- このため、浸水被害が発生した場合の対応について、運行への影響を最小限とするための車両避難手順や復旧手順を明確化しました。今後も、施設整備の進捗に合わせて、手順を随時見直します。
- また、施設整備により新設・更新された防水ゲートや防水扉などを迅速かつ確実に活用するため、整備した施設の取扱訓練等を実施し、万一の際に備えます。
- あわせて、お客様の避難誘導訓練や車両避難訓練、浸水対策施設を活用した自然災害対応訓練、大規模水害の発生を想定したタイムラインに基づく訓練を定期的実施するなど、多様な訓練を積み重ね、職員の対応力の向上を図ります。
- 加えて、被災後の円滑な復旧に向け、要員及び資機材の調達における支援など、他の鉄道事業者等との発災時の相互協力体制を構築します。

### 【 防水ゲート取扱訓練 】

地下部への浸水による被害拡大を防止するため、防水ゲートの閉扉・開扉の訓練を実施し、手順を確認します（図表 5-1）。



図表 5-1 防水ゲート取扱訓練

### 【避難誘導訓練】

お客様が円滑かつ迅速に避難できるよう、誘導手順等を確認します（図表 5-2）。



図表 5-2 避難誘導訓練

### 【車両避難訓練】

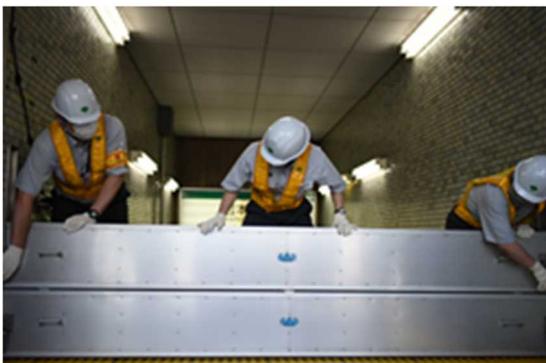
車両を浸水被害から守るため、実際に車両を運行し、高架部など浸水のおそれのない箇所に避難させるための手順を確認します（図表 5-3）。



図表 5-3 車両避難訓練

### 【自然災害対応訓練】

駅出入口からの水の流入を想定し、止水板や土のうの設置手順及び各部門間の情報伝達手順を確認します（図表 5-4、図表 5-5）。



図表 5-4 止水板設置



図表 5-5 土のう設置